

泥土リサイクル協会

汚泥の再資源化率 向上に貢献

スキルアップ勉強会を開催

(一社)泥土リサイクル協会(愛知県稲沢市、木村孟理事長)は10月19日、鹿児島市内で泥土リサイクルスキルアップ教育を目的とした勉強会を開催した。建設汚泥の健全で適正かつ有効な処理を実施できるよう、同協会がカリキュラムを設定し、産業廃棄物である建設

汚泥が建設残土として取り扱われている事例を関係法令等に沿って説明。また、自ら利用ならびに個別指定制度についての考え方などを解説した。協会会員その他、鹿児島市環境局資源循環部からも参加があり、受講者は泥土リサイクルの現状を学んだ。

鹿児島地区で勉強会を開く



今回の泥土リサイクルスキルアップ教育で、▽①再資源化から再生材の活用へ(泥土

点整理)のカリキュラムを組む、盛況のうち開幕を閉じた。同協会は、従来、廃

棄処分されることが多い泥土のリサイクルを促進し、資源の有効利用や生活環境の保全を図ることで、循環型社会の構築に寄与している。担当者は、「今後も地域が抱える建設汚泥リサイクルの課題解決に向けて、関係法令等に基づいた適正な建設汚泥リサイクルに関するセミナーを開催し、泥土リサイクルを担う現場技術者への環境教育や指導者育成に努めていく」とした。

リサイクルの現状)▽②個別指定制度について▽③シールド工事から排出される掘削土砂の区分▽④事業場外保管について▽⑤建設汚泥処理物に関する環境行政通知について▽⑥鹿児島市内における自ら利用に関する論